

※条例の実効性の確保を

(※白鷹町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例)



録画を配信

町長 具体的な行動や形に現れるよう努力する

今後どう取り組むのか

問 条例の実効性を高めるために、今後どう取り組んでいくのか。

町長

町民の皆さんそれぞれ役割を、ご理解いただき、具体的な行動や形に現れるよう、努力する。

問

職員の研修や町民へのイベントなどはどのような内容か。

健康福祉課長

職員は心のバリアフリー推進員養成研修を受講している。10月に元氣ニコニコ健康月間を設け、町民に健康や福祉について考えていただいた。地域共生社



竹田雅彦 議員

会実現に向けたパネルを展示し、障がい福祉サービス事業所の活動も紹介した。

問

啓発セミナーの開催など専門家の活用は。

健康福祉課長

どのような講義などが適切なのか、今後の取り組みとして考えた。

問

今後の広報のあり方は。

健康福祉課長

意識の醸成と定着が効果的に図られるような取り組みを考えたい。

問

障がい者差別解消支援地域協議会に期待することは。

健康福祉課長

どのような取り組みが効果的か提案いただくなど、差別解消に向けたアイデアを、それぞれの立場からお話いただきたい。

問

今後事業所を整備する際、地域の方々の理解を深めていただくためにどうバックアップするのか。

健康福祉課長

地域の方々の温かいご協力が得られるよう、必要に応じた支援をしていきたいかなければならないと思う。

※ノーマライゼーション理念を福祉教育へ

問

ノーマライゼーションを小中学校の福祉教育に取り入れてはどうか。

教育長

現在、学校教育で取り組んでいる※インクルーシブ教育システムの考え

方へ共通するものがあり、命の大切さや思いやりの心、相手を理解しようとする豊かな心の育成に取り組んでいる。ノーマライゼーションという言葉は違っても、学校生活の中における共生社会での育ちにより、その理念は自然の学びとして受け入れられると考えている。

問

小中学校で、福祉教育はカリキュラム化しているのか。

教育長

学校教育目標や各学年の指導計画との関連を明確にしながら実施している。総合的な学習のテーマに福祉や多様な生き方に触れることを設定し、福祉施設の訪問などを通じ、幸せの実現や福祉観の醸成に取り組んでいる。

※ノーマライゼーション

障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域でいきいきと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す考え方。

※インクルーシブ教育

障がいのある子どもとない子どもが共に教育を受け、共生社会の実現を目指す教育。



問

福祉に関する教員研修の状況は。

教育長

体験や訪問する機会を設けており、社会福祉協議会や福祉施設の方々にご指導をいただいている。